

日本共産党松江市委員会機関紙

新しい松江

発行 日本共産党松江市委員会・松江市袖師町3-6 電話24-2456

新型コロナウイルス感染者新たな発生 検査対象の拡大で感染阻止を 生活と生業支援を

コロナウイルス対策の補正予算編成を申し入れ 共産党松江市議団

4月30日、橋祥朗、吉儀敬子、田中肇の共産党市議団は、松浦正敬松江市長に対し、市民の命とくらしを守るための補正予算を直ちに編成するこ



講武総務部長に申し入れ書を提出する共産党市議団

とを求め、8分野47項目に及ぶ申し入れ書を提出しました。申し入れで、橋市議団長は、「政府の対策が的外れで遅すぎるもとの、自治体が市民を守る役割の発揮が求められている。市内でも感染確認が続く中、コロナの犠牲者も不況の犠牲者も出さないための財政支出が急務であり、直ちに補正予算を編成して臨時議会を招集し、議会が審議できる場を作るべき」と強く求めました。

この間市議団は、2月10日に感染拡大防止対策の拡充を
松江市は、新型コロナウイルスに係わる国の補正予算成立を受けて8日、国からの交付金に加え市の基金の繰り入れなどで、225億円余の補正予算を決めました。

松江市が10万円支給など、専決で取り組み開始

これは臨時議会を行わず市長の専決処分によるもので、一人当たり10万円の「特別定額給付金」や、市民生活支援、感染拡大防止、地域事業者の支援、小・中学生のタブレット整備などです。

73回目の憲法記念日に訴える

73回目の憲法記念日である5月3日、尾村利成島根県議会議員と橋祥朗・吉儀敬子・田中肇の3人の松江市議会議員団は、街頭から訴えました。市議団を代表して橋団長が、

コロナ問題について3度目の申し入れを松浦市長に対して行い、コロナ問題に対して松江市独自の施策を盛り込んだ補正予算を一刻も早く編成すべきであること、2点目は医療・営業・暮らしの各分野にわたって具体的提案を行ったことを報告しました。

医療の最前線で感染の危険と隣り合わせで頑張っている医療機関に対する国の支援が全く補正予算に反映されていけない問題を指摘しました。

議発憲改安、すな、許
守れ！と命、人権
平和



憲法記念日に訴える尾村県議と松江市議団

尾村利成県議会議員は、「憲法25条の生存権、憲法29条の財産権など、日本国憲法に照らして政治が憲法を守る役割を果たすために、力を合わせようと訴えました。特に

最後に吉儀市議が、安倍首相はコロナ問題に便乗して憲法に「緊急事態条項」を盛り込むことをねらっているが、現在の憲法の下での「緊急事態宣言」とは別物であり、憲法に「緊急事態条項」を盛り込めば、内閣が全権を握り、議会性民主主義が機能しなくなる危険性を強調しました。

国の事業主への「持続化給付金」制度は売上50%以上の減など対象が制限されます。収入減の市民への対策など、国に加え地方自治体の支援が必要となっています。

（徒然）

連日のコロナ禍で束が見通せず不安な毎日が続きます。子どもたちも家にいてストレスが溜まります。たまには公園で思い切つて体を動かし、存分に遊びましょう。大都市と違い地の公園は人も少なく、手軽に利用できます。筆者にも五歳と二歳の孫がいて、近くの公園で一緒に遊びますが、長い時には三時間にも及びます。つくづく子どもは遊びが好きだな、と感じます。ただ親は時間軸で動きますが、子どもは空間軸で行動するため、もっと遊びたい、ダメ、の応酬が繰り返されます。思うに、小学校入学までの六年間、子どもの最大の日課は遊ぶこと。人生でこの期間だけ、遊びが中心目的です。子どもの発達は、遊びを通じて促されます。難しいでしょうが、とことん遊びきるまで、遊ばせようではありませんか▼公園での遊びで改善したいのは、使用不能になっている遊具が散見されることです。いつも行く公園でも、二年たつてもまだ修理されない遊具がありまます。せっかく来た親子が、まだ使えないのといつて、がっかりして帰った光景も見ます。松江市の担当課もがんばっているのですが、予算が足りないようです。子どもたちの遊ぶ権利を保障するため、みんなで声を上げましょう。早く遊具を元通りに直してと。(和)